

# 全員でつかんだ栄冠



## 関西大会予選 優勝



### 『関西大会予選』

三月三日、宝ヶ池球技場で開催された関西大会京都府予選。晴れわたる空の下、美しいコートの中で十六チームによるトーナメント戦が行われた。



正午少し前、キックオフの合図とともにneoチームの試合が始まった。対戦相手の醍醐は、終始レベルの高いサッカーでゲームを支配した。後半、neoはなんとか一点を返したものの、追及及ばず大差をつけられて初戦敗退となった。一方、隣りのコートでは少し遅れてJチームの試合が

スタートした。しっかりと自分たちのプレーを展開したJは対・修善戦を二対〇で勝利した。

### 『雪辱戦』

Jチームの二試合目は、neoが初戦であたった醍醐。応援にも熱が入り勢いにのったチームを相手に、Jはしっかりと得点を決め、そのリードを守り二対〇で快勝。「J対neo」の一戦は残念ながら実現しなかったが、関西大会への進出を見事に決めた。

### 『逆境をバネに』

大会二日目。準決勝が洛西浄化センターで行われた。JFCはキャプテン・ユウジが急な体調不良で不在となり、急きょ四年生を控えとして待機させる形で試合にのぞむことになった。あらかじめ予報で知らされていたものの、屋前から降りだした冷たい雨は選手たちの体から力や熱を奪取し奪っていった。そんな中、ピッチでは深草との一戦が行われていた。息詰まる攻防の中、JFCはコーナーキックからのセットプレーを確実に決め、一対〇で勝利。決勝へとコマを進めた。



### 『死闘』

ついに訪れた決勝の舞台。相手は、韓国行き代表メンバーを数名輩出している強豪・花山。自分たちの持ち味を生かした攻撃体勢をつくりだすまい。花山の猛攻を全員で防ぐJFCは終始苦しいゲームを強いられた。結局、延長戦でも決着はつかず、勝負の行方はPK戦へと持ち越された。

### 『最終決戦』

運命のPK戦が始まった。先攻のJFCはいきなりユウジのシュートを相手GKに止められ、続く花山の一人目にゴールを許した。流れは花山に傾き、JFC絶体絶命のピンチ！

## 魅せた！ジョイフル魂



しかし、二人目・ハヤテが冷静にシュートを決め、GKタイキがスパーセーブで最大の山場を乗り越える。次はタイキ自身が三人目として弾丸シュートをゴールに突き刺し、続く花山の選手が放ったシュートをまたしても体を張って封じた。終了を告げるホイッスルが響き、長く壮絶な戦いはJFCの優勝という最高の形で幕を閉じた。

### 『栄光への架け橋』

#### 『啓明カッパ』

関西大会予選に向けての最終調整となった啓明カッパ。強豪ひしめく大阪のチームを相手に挑んだJFCだったが、一日目は選手数が欠場したため、万全の体制でのぞむことができずにその日を一勝二敗で終えた。二日目。北風が吹きぬける冬の河川敷にて、三位トーナメントで順位を争うことになったJFCは初戦を二対〇、続く二戦目も一対〇とかるうじて勝利をおさめて決勝進出を果たした。「思い切った！」「コーチの言葉を胸に挑んだ最後の一戦は、前半を二対〇で折り返し、その勢いを保ったまま後半に追加点を奪うという理想的な展開で圧勝。見事トーナメント戦を制し、良い形で締め

### 『白熱！』

#### 『応援団』

今大会優勝に大きく貢献したのがneoチーム（プラスちびっ子サポーター）の熱い声援だった。

仲間を信じ、声をそろえて気持ちを一気に応援するneo全員が存在が、激戦を繰り広げるJチームの精神的支柱になっていたことは言うまでもない。



くれたことが、今大会へのはずみとなった。



『NEVER GIVE UP!』

選手のみならず、優勝おめでとう！今大会は、体力的にも精神的にもきつい場面があり、納得できなかったり悔しい思いをしたりといった瞬間が多々あったことと思えます。しかし、一人ひとりの「最後まであきらめない」「気持ちが素晴らしい」結果を生み出しました。このことを自信につなげ、日々の練習を大切に、どんな相手にも通用する「ジョイフルのサッカー」をこれからも見せてください。大変だけど、みんななら絶対やってくれると信じています！